# 報　告

## 第三十六回　経済研究会報告

四月二十八日(火)　於　経済学部研究室

発表者　①湯浅定夫氏

テーマ「財政理論における古典」(紹介)

座長　中西仁三教授

発表者　②黒松巌教授

テーマ　京都染色工業の分析

座長　宗藤圭三教授

(出席者)　中西、宗藤、松井、松山、小松、中島、相見、岩根、岡谷、林、伊藤、田口、西村、入江、辻、岡、黒田、榊原、渡辺、山下、村田、小林、今村。

湯浅氏の報告に関しては、本号紹介(九二頁——九八頁)に掲載されているので、ここでは黒松教授の報告の要旨を紹介しよう。

日本工業の一つの構造的特質として、「二極集中」ということが指適されている。それは一方で独占的な大企業が存在しながら、他方ではまた余りにも数多い中小ないし零細企業が広汎に存続しているからである。ところで、このような中小・零細企業等の支配的な産業はいわゆる「伝統産業」の系譜に列するものが多いことを見逃してはならない。もとより、伝統産業も近代化しつつあるが、そのテンポが遅く、その構造は大小・新旧のそれぞれの経営形態、存立形態を含み、その生産・流通の構造にも複雑なるものを存している。

この報告はこうした根本的な問題点を先ず明らかにし、そのような問題視角から伝統産業としの京都染色業の近代化—大規模機械化の過程のなかで、特に仕入友禅業がいかなる存続条件を持っているか、それを生産・流通の構造分析を通じて簡明に示し、その詳細な諸点に関しては質問に応じて解答したつもりである。